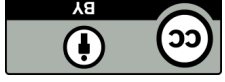


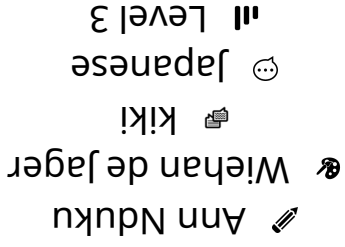
レ、L、Z、H、J、K、X

今、 $\angle 2$ 、 $\angle 1$ 、 $\angle 4$ 、 $\angle 3$

This story originates from the African Storybook (africanstorybook.org) and is brought to you by Storybooks Canada in an effort to provide children's stories in Canada's many languages.



<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0>





昔むかしある所に仲よしのメンドリとワシ
がいました。メンドリとワシは他の鳥達
とも仲よしでしたが、どの鳥も飛ぶことは
出来ませんでした。

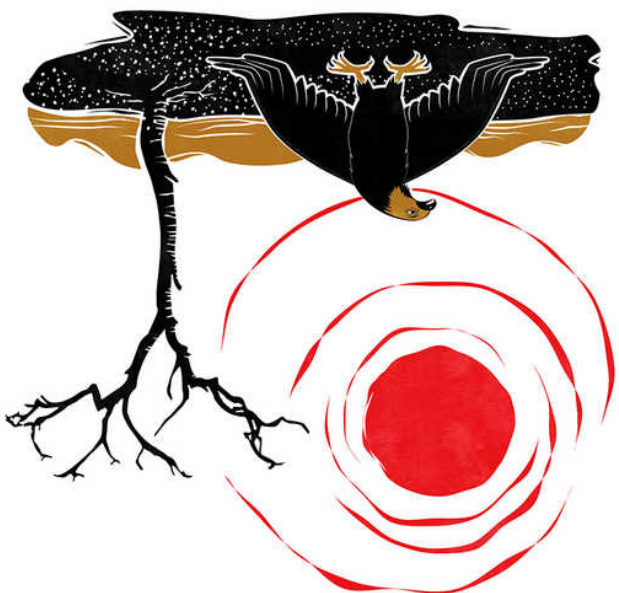


ワシの翼の影が地に映るたびに、メンドリ
は雛に「さあ、荒野から出て行って！」と
言うようになりました。そして雛達はこう
答えるのです。「間抜けじゃないから、
走って逃げるよ。」

次の日ワシがメンブリの所に行くと、メンブりは砂を掻いている所を見つけた。しかし、針は見つからなかったようです。そこでワシは素早く下降し、一匹雞をわしつかもと持ち去っていきましました。それからというもののワシが表れる度に、針を見つけてため砂を掻いているメンブリを見かけるようになったということです。



ある日この地に飢饉が襲いました。このためワシは食べ物を探しに遠くまで歩かねばならなくなり、クタクタになって戻ってくるのです。「食べ物を探しに行くのに簡単な方法があるはずだ！」とワシは言いました。





一晩明けメンドリは素晴らしい考えを思いつき、他の鳥の抜け落ちた羽を集めてこう言いました。「抜け落ちた羽を自分の羽に縫い付けば、食べ物探しがたやすくなるだろう。」



メンドリはワシに「一日時間をください。そうすれば翼を直し、また食べ物探しに飛ぶことができるでしょう」とお願いをしました。「一日だけだ。針が見つからなかったら、その代わりに雛の内一匹をいただくからな」とワシは答えました。

その日の午後遅く、ワジは戻るなりメンドリに、「食べ物探しで緩んでしまった羽を直したいから、針を使いたい」と言いました。メンドリは戸棚を、台所を、そして庭を探しましたが、針はどこにも見当たりませんでした。



ワジはその集落で唯一針を持っておりましたので、初めに縫うことになりました。ワジは美しい翼を一組自身に飾り付けると、空高く飛んでいきました。メンドリは針を借りたもののすぐ縫うのに飽きてしまい、したので、戸棚に針を置き、雞達に食べ物を用意するために台所へと向かいました。





一方他の鳥達はワシが飛んでいるのを見て、メンドリに「ワシと同じく翼をこしらえたいから、針を貸して欲しい」と頼みました。ほどなく空の至る所に飛ぶ鳥達を見かけるようになりました。



さて、最後の鳥が借りた針を返しにいくと、メンドリはそこにいませんでした。そこで、メンドリの雛達は針で遊び始めました。遊びに飽きると針を砂地のどこかに置いていってしまいました。